

感動の場 一点の場

『植物園』

1937 年 小川原 脩 画



今から 83 年前の昭和 12 年、10 月 1 日から翌日まで、東京・銀座の資生堂ギャラリーで一つの個展が開かれました。当時、若い画家の個展は珍しいことで、ずいぶんと目立ったことでしょう。その画家とは、東京美術学校を出てまだ 2 年目、26 歳の小川原脩でした。のちに本人も「怖いもの知らずで、今考えると冷や汗がでる」と振り返っています。明るいつターコイズの空色が印象的な本作をはじめ、今では横浜美術館所蔵の「植物譜」「砂漠の花」、板橋区立美術館所蔵の「野の対話」など、この「植物園」シリーズがずらりと並んだ様子からは、ダリやエルンストといった海外のシュルレアリスム（超現実主義）に強く影響を受け、倣い、吸収し、そして実験的な制作を繰り返していたことがはっきりと見て取れたことでしょう。

大きく伸びた花房と小さめの花房が左右に咲いています。太い茎にクルクルとした花卉の集まりはヒヤシンスの花房を思わせますが、描かれた植物は小川原の想像の産物で、一片一片が動き出し、ほぐれ、素肌を晒す小人の群れにも見えてきます。そうすると、ここは巨大植物の園で、小さな生き物たちが草の陰から大きな空を見上げている光景なのかもしれません。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

—豆炭あなか—

豆炭あなかは火をつけた豆炭を中に入れて、その熱で暖まる道具です。布団の中に入れて使うことができます。子どもの頃寝る前に布団に入れた豆炭あなかのおかげで、足元がホカホカと暖かったことを懐かしく思い出します。本体は、横 20 ㌢縦 15 ㌢高さ 10 ㌢程の大きさで、中に岩綿（ロックウール）が詰めてある単純な構造で、真ん中に豆炭を入れるくぼみがあります。豆炭は石炭の粉末を 5 ㌢ほどの大きさに成型したもので、豆のように中央部が膨らんだ形をした固形燃料です。

豆炭あなかの長所はなんといっても暖房能力の高さと暖房時間の長さです。豆炭あなか一つで足元全体が暖まります。時間の経過とともに温度が下がっていく湯たんぽとは違い、豆炭あなかは 10 ～ 15 時間温度を保ってくれるため一晩中、布団を暖めてくれます。ただし、注意しなければならないのが、長時間触れていると起きる低温やけどです。また、豆炭が燃え続けるので一酸化炭素が発生します。気密性の高い部屋や車内、テントでは一酸化炭素中毒に注意が必要です。

昔懐かしい豆炭あなかですが、現在でも売られていて、釣りやアウトドア、スポーツ観戦などで愛用している人もいます。また、災害時にも使える暖房器具としての人気も出てきているようです。冬にライフラインが止まったら、と考えるといざというときに心強い道具かもしれません。

文：森脇 友行（倶知安風土館 学芸補助職員）



ふるさと探訪

450 回

展覧会のお知らせ

■第 1 展示室

小川原脩展「アジアへのまなざし」

小川原脩は、その画業の中で晩年の大きな転換点ともいえるアジアへの旅において、中国桂林、チベット、インドのそれぞれの風物に、鮮烈な印象を受けました。本展では小川原脩が描いた、アジアの大地で人と動物たちが繰り広げる悠々とした時間が流れる世界を紹介します。

会 期：開催中～ 11 月 15 日(日)

■第 2 展示室

小川原脩展「世界へ向かう：シュルレアリスムと美術」

東京美術学校（現・東京藝大）卒業後も東京に留まり、シュルレアリスム（超現実主義）の芸術運動に飛び込んでいった若き画家・小川原脩。構想の試行錯誤を示す素描やペン画からは、ピカソ、ダリ、エルンストといった海外作家を受容しつつ、新たな創作へと向かう熱意が伝わってきます。本展では、本格的にシュルレアリスム絵画に身を投じた 1937 年頃から、戦争へと傾いていく時代まで、激動の時期に描かれた作品をクローズアップします。

会 期：10 月 3 日(土)～令和 3 年 1 月 11 日(月)

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

※ 3 日は展示室で、その他は映像ルーム（無料）で、各回定員 10 名
ギャラリー・トーク「小川原脩とシュルレアリスム」

日 時：10 月 3 日(土) ① 14 時、② 15 時

会 場：第 2 展示室（無料） お話し：沼田絵美（学芸員）

幸せアート（4）「マティス～安らぎの芸術」

日 時：10 月 10 日(土) ① 14 時、② 15 時 お話し：柴 勤（館長）

世界のグレートアーティスト（4）

「ドイツロマン主義 フリードリヒとその周辺」

日 時：10 月 17 日(土) ① 14 時、② 15 時 お話し：柴 勤（館長）

ユネスコ世界遺産（3）「ルネサンス」

日 時：10 月 24 日(土) ① 14 時、② 15 時 お話し：柴 勤（館長）

アート・トーク「小川原脩から日本、世界のシュルレアリスムへ」

日 時：10 月 31 日(土) ① 14 時、② 15 時 お話し：柴 勤（館長）

■風土館イベント※要予約

寺子屋ミュージアム（小中学生向けイベント）「作ろう！知ろう！ニセコ連山①」

ニセコ連山のミニチュアを石こうで作って、地形や自然について学びます。今回はニセコアンヌプリ周辺です。

日 時：10 月 3 日(土) 13 時 30 分～ 16 時 30 分 定 員：10 名（先着順） 場 所：倶知安風土館

講 師：古市竜太さん（マウンテンガイド・コヨーテ主宰） 参加費：300 円（材料費）※②は来年度実施予定

ふるさと探訪「晩秋・錦色に染まる高層湿原とジャコ川の紅葉」

日 時：10 月 17 日(土) 9 時～ 13 時 定 員：8 名（先着順） 集合場所：HANAZONO GOLF 駐車場（字花園）

講 師：古市竜太さん（マウンテンガイド・コヨーテ主宰） 参加費：250 円（保険代）

ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎ 21-4141

観 覧 料：一 般 500 円（400 円）

高 校 生 300 円（200 円）

小中学生 100 円（ 50 円）

倶知安風土館 ☎ 22-6631

観 覧 料：一 般 200 円（100 円）

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は 9 時～ 17 時

入館は 16 時 30 分まで

※（ ）内は 10 名以上の団体料金

10 月の休館日 毎週火曜日

1 日、2 日（展示替えのため）

さよなら、また来年！

こんな挨拶をするようになってから、もう何年が経つでしょうか。9 月にも、いわゆる長期滞在者で美術館の常連さんのご夫婦が二組、倶知安を去っていきました。こちらに滞在中は、ほとんど毎週のように土曜サロンへ参加いただいている方々です。それがもう何年も繰り返されているのです。

講座を聞くことはきっかけの一つ、むしろ、そこに集まる地元の人々と交わることを楽しみにしているようです。お互い同士、皆さんすっかり、顔なじみですからね。来年も待ってますよ、喜多さん、中西さん！

館 長 柴 勤